

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	令和2年度(平成32年度)でコミュニティバス運行事業者との協定が期間満了となるため、運行検討委員会による今後のコミュニティバスの運行形態を検討する。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	コミュニティバス運営検討委員会の提言を踏まえた新たな運行計画を作成しコミュニティバスの継続運行を行う。
②①に基づく取り組み結果	コミュニティバス運営検討委員会を開催し、持続可能な「ききょう号」のための今後の望ましい運営のあり方について提言書をいただいた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内の交通不便地区における課題解消や公共施設等の使用促進を図るため、運行事業者への一部補助などにより公共交通網の充実を図るもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化による利用者増の現状において、増便やルート要望など更なる利便性向上の要望が見込まれる一方で、限られた財源の中で持続可能な運行が求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	利用客数 131,843人(前年度比2.2%増) 市庁舎バス停留所待合施設設置工事						
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠	
	i	コミュニティバス利用者数	123,932	129,033	131,843	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	47,000	48,410	金額(千円)	内容	48,134		
	国支出金(千円)		47,000	補助金			
	県支出金(千円)		1,229	工事費			
	市債その他(千円)	5,000	177	報償費	5,000		
	一般財源(千円)	42,000	43,410		43,134		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	運行ルート、バス停留所の改善要望や高齢者等の移動確保等、コミュニティバス利用者の利便性と持続可能な運行について検討する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い	
③上記評価の理由	高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	補助金	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	補助金	47,340	48,592	当初	47,340	48,410	H30からの繰越	0
				H30⇒R1繰越	0		現年分	48,410
③達成状況	完了			補正	1,252			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				令和2年度への繰越額(単位:千円)	0			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	全線高架化に向け、関係機関との調整を密にしながら事業を進める。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	早期に周辺整備工事に着工できるよう仮線撤去工事を進める。
②①に基づく取組み結果	全線高架化した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	旧踏切、仮線などがあり、市街地が分断されていることから生活環境や利便性の向上のため早期に周辺整備工事を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	全線高架化に向け、高架橋、駅舎、軌道、電気工事を実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100%	業務取得
	ii	事業進捗率(事業費ベース)	78	86	89%	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	529,124	399,272	金額(千円)	内容	437,031	
国支出金(千円)			398,633	県事業への負担		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	488,400	354,700			340,600	
一般財源(千円)	40,725	44,572			96,431	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	旧踏切、仮線等があり、市街地が分断されている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市街地の分断解消に向け、早期完成が必要であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	負担金	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	399,519	691,763	当初	400,519	H30からの繰越	247,459	
				H30⇒R1繰越	291,244			
③達成状況	未完了			補正		399,272	現年分	151,813
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため。			流用・充当				
			令和2年度への繰越額(単位:千円)		224,302			